令和8年10月22日（木）

# おとひめ



## 防災 ～自助・共助・公助～

山口小学校長　吉村　康介

学校の防災教育と地域の防災デイキャンプ、地域祭りを合わせた「やまぐち地域あんしん祭り」が行われました。このような形で実施するのは初の試みでしたが、地域の皆様をはじめ、国土交通省や企業、関係団体の皆様にご協力いただき、多くの方々が集う一日となりました。

当日は、さまざまな体験ブースや展示、講座が設けられました。子どもたちは、災害への備えや防災に関わる仕事について話を聞いたり、実際に体験したりしながら学びました。教室の中だけでは得られない気付きや発見が数多くあり、防災をより身近なこととして考える機会となりました。また、今回は６年生も防災に関するブースを出展しました。これまでの学習で学んだことを来場者に伝えたり、防災の体験を提供したりする姿が見られました。「教わる」だけでなく、「伝える」立場を経験したことで、防災についての理解がより深まったことと思います。そして、来場者の方々とのやり取りを通して、自分たちの学びが地域とつながっていることを実感する貴重な機会ともなりました。

さらに、今回の取組で特に意義深かったのは、防災を「学校の学習」としてだけでなく、「地域全体の取組」として学ぶことができた点です。

災害が発生したとき、まず大切になるのは、自分の命を守るためにどう行動するかを判断する力です。子どもたちはさまざまな体験を通して、日頃から備えることの大切さや正しい知識・技能を学びました。防災の第一歩である「自助」の力を身に付けるきっかけになったのではないでしょうか。

一方で、大規模な災害時には、自分一人や家族だけで対応することが難しい場面もあります。そのようなときに力となるのが、地域の人々による助け合いです。会場では、子どもたちが地域の皆様や関係機関の方々と交流しながら学ぶ姿が見られました。こうしたつながりこそが、「共助」の基盤になるのだと思います。

また、国土交通省をはじめとする行政機関や企業の皆様にもご参加いただきました。道路や河川の整備、防災情報の提供、災害時の支援活動など、私たちの安全な暮らしは多くの人々の仕事によって支えられています。子どもたちは、防災における行政や企業の役割に触れ、「公助」についても具体的に学ぶことができました。

自然災害は各地で頻発しています。だからこそ、防災は一度学んで終わりにするものではありません。今回の学びや経験をきっかけに、一人一人が「自分にできる備えは何か」「地域でどのように支え合えるか」「社会はどのように私たちの安全を支えているか」を考え、今後も家庭や地域で防災について話題にしてもらえればと思います。



今回の学習を進めるにあたり、ご協力いただきました山口総合事務所をはじめ関係機関の皆様、企業の皆様、そして地域の皆様に心より感謝申し上げます。